

# 東南アジア教育大臣機構 (SEAMEO) における予測活動

浦島 邦子

## 概要

東南アジア教育大臣機構 (SEAMEO) は、1965 年に教育、科学技術、文化を通じ、ASEAN 諸国間の協力を促進することをビジョンとして発足、今年で設立 50 周年の節目にあたる。2013 年 1 月「Post-2015 Education Agenda in Southeast Asia」と題して、SEAMEO 参加国の主要なメンバーが一堂に会し、ミレニアム開発目標 (MDGs) と 2015 年以降の教育に関する SEAMEO での取組を更に集中する必要性についての話し合いが行われた。本会合では、SEAMEO として多くの意見を取り入れつつ 2015 年以降の教育の優先順位を適切に取り決めるために、初めてフォーサイトが導入された。2014 年 3 月まで、ワークショップやデルファイ調査、シナリオライティングなどの作業を通じて検討した結果、優先すべき施策として①乳幼児のケア及び教育の推進、②全ての子どもたちに基本的な学習機会を与えること、③緊急事態に備え対応する学校関係者と地域社会の準備、④技術及び職業教育訓練の推進、⑤教師をベストの職業と意識させるプロモーション活動、⑥高等教育と研究の調和、⑦真の 21 世紀のカリキュラム採用、といった項目が挙げられた。2015 年の ASEAN 経済統合開始を踏まえ、SEAMEO でのフォーサイト活動は今後も継続されることから、我が国の積極的な協力・貢献が期待される。

**キーワード：**東南アジア教育大臣機構, SEAMEO, フォーサイト, 持続可能な開発のための教育, ESD, ミレニアム開発目標, MDGs, ASEAN

## 1 SEAMEO とは

東南アジア教育大臣機構 (SEAMEO) は、1965 年に教育、科学技術、文化を通じ、ASEAN<sup>1)</sup> 諸国間の協力を促進することをビジョンとして発足した。今年で設立 50 周年の節目にあたる。現在の加盟国は ASEAN 諸国及び東ティモールの 11 か国である。準加盟国として、オーストラリア (1973 年加盟)、フランス (1973)、ニュージーランド (1974)、カナダ (1988)、ドイツ (1990)、オランダ (1993)、スペイン (2007)、英国 (2013) の 8 か国が入っている。日本は理事会にオブザーバーとして出席、また筑波大学が数学を中心とした様々なイベントに継続的に参加している。事務局はバンコクにあり、加盟国 11 か国内にそれぞれ図表 1 に示すように目的別に

設置された 21 のセンターにて、教育研究、医学教育、農学教育などに関して主に教員研修や教材開発を行っている。ネットワークとパートナーシップを確立し、政策立案者や専門家のための知的なフォーラムを提供している。そして持続可能な人材育成を推進開発するとともに、21 のセンターを通じて東南アジアの教師や学校の管理職の能力を育むことをミッションとして活動している<sup>2)</sup>。

SEAMEO は加盟各国からの拠出金によって運営されているが、イベントごとに多くの政府機関・団体・企業などから寄附を得て実施している。実質、日本からのサポートは他国よりも多く、例えば SEAMEO 加盟国内の小・中・高等学校の持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development) に関する優秀な事例を「SEAMEO-JAPAN ESD AWARD」として表彰し

ている。優秀校には、日本訪問の機会を提供し、日本のユネスコスクールとの交流を深めることを行っている<sup>3,4)</sup>。

2013年1月「Post-2015 Education Agenda in Southeast Asia」<sup>5)</sup>と題して、SEAMEO 参加国の主要なメンバーが一堂に会し、ミレニアム開発目標(MDGs)と2015年以降の教育に関するSEAMEOでの取組を更に集中する必要性についての話し合いが

行われた。国連ミレニアム開発目標(MDGs)に基づき、2015年までに世界中の全ての人たちが初等教育を受けられ、字が読めるようになる(識字)環境を整備しようとする取組「万人のための教育(EFA: Education for All)」<sup>6)</sup>はSEAMEOの活動ともリンクしており、今回、2015年以降の教育をSEAMEOとしてどうするか、多くの意見を取り入れて決めるために初めてフォーサイトが導入された。

図表1 SEAMEOの各センターの名称と目的



出典：SEAMEO ホームページより

SEAMEO BIOTROP (設立 - 1968)	SEAMEO Regional Centre for Tropical Biology 熱帯生物地域センター  ボゴール、インドネシアに設置。森林、害虫や水生生物学にフォーカスして活動。熱帯生態系の持続的な発展のために、SEAMEO 加盟国における優先順位付けや分析、地域の重要な生物学的な問題などを取り扱っている。
SEAMEO CELLL (設立 - 2011)	SEAMEO Regional Centre for Lifelong Learning 長寿学習地域センター  ベトナムに設立。教育政策の発展の基礎として生涯学習に関する研究・研修を専門としている。生涯学習を促進する上でアジアとヨーロッパの間のリンクを強化するための中心となることが期待されている。
SEAMEO CHAT (設立 - 2000)	SEAMEO Regional Centre for History and Tradition 歴史と文化地域センター  ミャンマーに拠点。SEAMEO の最新のセンター・オブ・エクセレンスであり、2000 年 12 月に発足した。研究、人材育成、教育、ネットワーキングを通じて SEAMEO 加盟国間の歴史と伝統の研究における協力を推進。

SEAMEO INNOTECH (設立 - 1970)	SEAMEO Regional Centre for Educational Innovation and Technology 教育イノベーションと技術の地域センター
	フィリピンに拠点。SEAMEO 加盟国において、共通又は特殊な教育問題とニーズを解決するのに役立つ革新的な技術指向の教育プログラムを広める。
SEAMEO QITEP in Language (設立 - 2009)	SEAMEO Regional Centre for Quality Improvement of Teachers and Education Personnel (QITEP) in Language 先生と個人教育の質向上地域センター(語学)
	インドネシアの教育省がホストし、ジャカルタに拠点。中心は言語の分野での教員・教育担当者の質向上に資するプログラムや活動を推進。
SEAMEO QITEP in Mathematics (設立 - 2009)	SEAMEO Regional Centre for Quality Improvement of Teachers and Education Personnel(QITEP) in Mathematics 先生と個人教育の質向上地域センター(数学)
	インドネシアの国立教育省が主催。数学の分野での教員・教育担当者の質向上に資するプログラムや活動を推進。
SEAMEO QITEP in Science (設立 - 2009)	SEAMEO Regional Centre for Quality Improvement of Teachers and Education Personnel (QITEP) in Science 先生と個人教育の質向上地域センター(科学)
	インドネシアの国立教育省が主催。バンドンに拠点。科学の分野での教員・教育担当者の質向上に資するプログラムや活動を推進。
SEAMEO RECFON (設立 - 2010)	SEAMEO Regional Centre for Food and Nutrition 食と栄養のための地域センター
	ジャカルタに拠点。食品と栄養のためのセンターは、以前はコミュニティ栄養のための地域センターであった。TROPED ネットワーク下にある 4 SEAMEO センターの一つ。
SEAMEO RECSAM (設立 - 1967)	SEAMEO Regional Centre for Education in Science and Mathematics 科学と数学教育のための地域センター
	ペナン、マレーシアの島に設立。科学、数学、技術教育プログラムの開発。
SEAMEO RELC (設立 - 1968)	SEAMEO Regional Language Centre 地域語学センター
	シンガポールに拠点。言語の専門家や教育者のスキルをアップグレードするための専門知識、訓練施設や研修プログラムを通じて、言語教育と学習の知識や教育学的な分野に焦点を当てる。
SEAMEO RETRAC (設立 - 1996)	SEAMEO Regional Training Centre 地域トレーニングセンター
	ホーチミン市に拠点。人材育成における一般的な問題を解決する。特に教育の管理を担当。
SEAMEO RIHED (設立 - 1993)	SEAMEO Regional Centre for Higher Education and Development 高等教育と開発のための地域センター
	タイ政府が主催。政策や計画、管理、及び高等教育の管理上のニーズに対応。
SEAMEO SEAMOLEC (設立 - 1997)	SEAMEO Regional Open Learning Centre 地域オープン学習センター
	インドネシアに拠点。教育問題を特定し、オープンな学習と遠隔教育の有効活用を通じて持続可能な人材育成のための代替策を見つける。

SEAMEO SEARCHA (設立 - 1966)	SEAMEO Regional Centre for Graduate Study and Research in Agriculture 農業の大学院と研究のための地域センター
	フィリピン政府が主催。人材育成プログラムと研究と普及活動を通じて、地域の農業と農村のニーズを提供。
SEAMEO SEN (設立 - 2009)	SEAMEO Regional Centre for Special Education 特別教育のための地域センター
	マレーシアに拠点。才能のある子供たちのニーズに合わせて様々な障害と教育のある子供のニーズをサポートするための教育を専門としている。
SEAMEO SPAFA (設立 - 1978)	SEAMEO Regional Centre for Archaeology and Fine Arts 建築とファインアートのための地域センター
	タイ政府が主催。地域の考古学的及び文化活動を推進。SEAMEO 加盟国間の相互の知識と理解を進めるために考古学や美術の分野での専門的能力を伸ばす。
SEAMEO TROPMED Network (設立 - 1966)	SEAMEO Tropical Medicine and Public Health Network 熱帯海洋と公共健康ネットワーク
	熱帯医学及び公衆衛生の教育、訓練、研究のために設立された、地域協力ネットワークである。ネットワークは、熱帯医学と公衆衛生の高等教育と研究の焦点となっている。SEAMEO TROPMED ネットワークはマレーシア、フィリピン、タイの3のサブ地域センターがあり、中央オフィスはバンコクに拠点。ネットワークの全体的な役割は、健康を促進し、予防し、熱帯病及び公衆衛生上の問題を制御することである。
SEAMEO TROPMED Malaysia (設立 - 1967)	SEAMEO TROPMED Regional Centre for Microbiology, Parasitology and Entomology マクロバイオ、寄生生物と昆虫のための熱帯医学
	クアラルンプールの医学研究のための研究所に拠点。疾患の予防と管理のための研究を行い、専門研修、診断、コンサルティング及びアドバイザリーサービスを提供している。政府の共同責任、民間部門、非政府組織、地域社会と個人として健康管理を推進している。
SEAMEO TROPMED Philippines (設立 - 1967)	SEAMEO TROPMED Regional Centre for Public Health, Hospital Administration, Environmental and Occupational Health 公共健康、病院運営、環境と職業上の健康のための熱帯医学
	マニラのフィリピン大学の公衆衛生の専門学校が拠点。公衆衛生、農村医学、病院管理、環境・労働衛生、健康政策と管理の分野で研究・研修を実施している。
SEAMEO TROPMED Thailand (設立 - 1967)	SEAMEO TROPMED Regional Centre for Tropical Medicine 熱帯薬のための熱帯医学
	熱帯医学及び公衆衛生の教育、訓練、研究のために1966年に設立された地域協力ネットワークである。ネットワークは、熱帯医学と公衆衛生の高等教育と研究の焦点となっている。
SEAMEO VOCTECH (設立 - 1990)	SEAMEO Regional Centre for Vocational and Technical Education and Training 職業と技術教育のための地域センター
	ブルネイに拠点。SEAMEO VOCTECH は SEAMEO 加盟国における職業技術教育訓練 (TVET) の管理を改善するために設計されている。センターが開発し、社会経済、産業、ビジネス、労働市場における、地域、国、地域のニーズを満たすために VIET に関連するプログラムを提供する。

2015年4月1日現在

出典：SEAMEO ホームページを基に科学技術動向研究センターにて作成



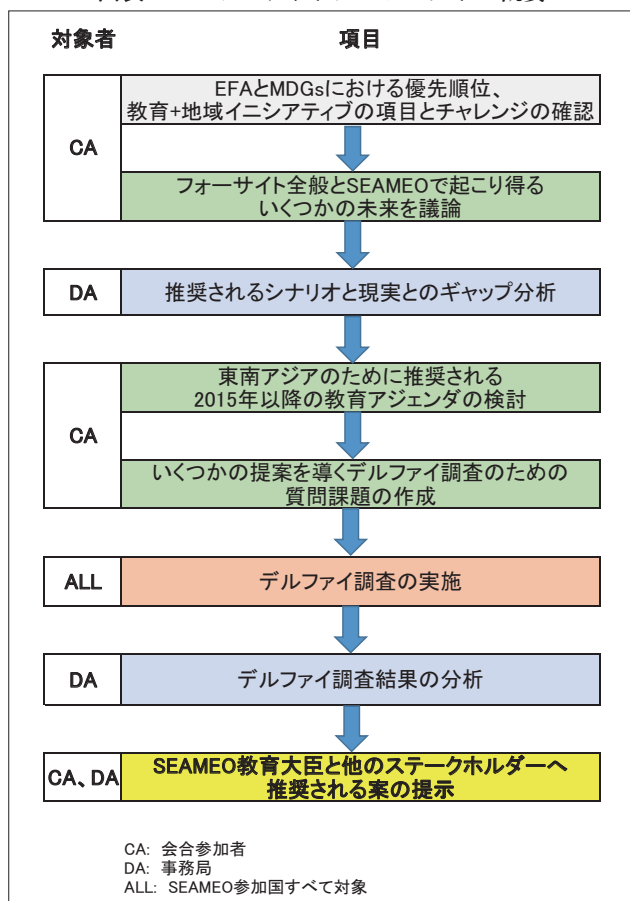
## 2 SEAMEOでのフォーサイトの実施

### 2-1 フォーサイト導入のいきさつと概要

SEAMEOではこれまでワークショップや会議などを通じて多くの意見を聞き、施策を決定してきたが、そうした活動で得られるアイデアや意見は、参加者の数や属性に依存することが多かった。そこで新たな取組を模索していたところ、APEC フォーサイトセンター長の経験も持つ SEAMEO 事務局長のイニシアチブにより、2013 年より施策の決定等にフォーサイトを導入することになった。フォーサイトを実施することで、目指す未来を皆で考え、共有し、デルファイ調査によって多くの意見を集約することができる。そしてこうした一連のフォーサイトの取組は、様々な SEAMEO の活動に応用できる。そこで、フォーサイトに関して長年の経験を持つ当研究所のフォーサイトセンターが協力・参加することになった。

今回のプロジェクトの概要を図表 2 に示す。教育に関する様々な施策や活動が現状どのようになって

図表 2 フォーサイトプロジェクトの概要



いるかを把握し、検証することを中心にプロジェクトの計画が立てられた。プロジェクトは2013-14年度で実施された。

WSには、各国のSEAMEO職員のほかに、SEAMEO関係者、各国の文部省、教育関係者、並びにUNESCOやNGOなどの方々が参加した。会合は全5回タイ国内で開催され、参加者はのべ300名程度となった。

### 2-2 未来の検討とデルファイ課題の設定

第1回会合は、プロジェクトの概要とフォーサイトに関して理解を深めることと、現状把握することを目的に、グループごとに教育現場における実情について話し合った。

現在、カンボジア、ベトナム、フィリピン、タイ、ラオスは、特に気候変動の影響により災害が増加し、教育の多くの機会が消失している。今後はASEANの枠組みで実施されている教育に関する取組を強化することが必要であり、特に多くの国々との関係強化を図るためにも、英語での教育を強化することが早急の課題である。しかしながら、貧困層にも母国語でしっかりと教育することが先決である、などといった意見が出された。

そして、次の1. ミッションとポリシー、2. マネージメント、3. 教育学とカリキュラム、4. 教師と生徒、5. リソース、6. 連携とパートナーシップ、の6テーマに分けて、グループごとに未来を見据えて重要となる課題を検討した。そして各グループの意見をまとめ、33の課題を設定し、図表3に示すように各国の関係者を対象としてデルファイ調査を実施した。

図表 3 デルファイ調査の回答者と回答数及び回答率

回答者の属性	数	%
SEAMEO 加盟国	150	13.64
SEAMEO 準メンバー国とパートナー	120	10.91
SEAMEO 加盟国の行政官	159	14.45
SEAMEO 加盟国と職員	105	9.55
国際 NGO と CSOs	92	8.36
大学と研究所	120	10.91
その他(シンクタンク、元 SEAMEO 職員)	42	3.82
学生とコミュニティ	118	10.73
メディア	88	8.00
私的セクター	106	9.64
合計	1100	100.00

## 2-3 デルファイ調査結果

デルファイ調査の結果を図表3に示す。デルファイ法で実施したことから、同じ質問を2回繰り返して回答を求めたが、1回のみの回答も含まれる。そして33課題に対して回答を集計し分析した結果、全体の傾向として図表4のような結論が得られた。

## 3 まとめ今後の活動方針

全5回のWSを実施して得た、本プロジェクトの結果より、SEAMEOとして優先すべき施策として次の7項目が挙げられた。

### ①乳幼児のケア及び教育の推進

幼児期の環境や教育は脳への影響が大きいことが知られているが、幼児によっては教育が行き届かない環境に置かれていることがある。よって周りがサポートして幼児を育てることが、後の国力につながる。

### ②特に小学校を対象として、学校外や就学年齢にとられない全ての子供たちに、全ての基本的な学習機会を与えることへのアクセス障壁への対応

貧困や両親の低学歴、農業が主な収入の家庭では、特に繁忙期になると子供たちも労働力として使われ、学習機会が喪失される。こうした状況を改善するための施策が必要である。

### ③緊急事態に直面した後の回復力に向けて、学校の

指導者、教師、学生、地域社会の準備

アジアの国々では台風や地震など、自然災害が発生した場合の教師の対応が様々であり、それが原因で多くの子供たちの命が失われることがある。よって、こうした被害をなくすには教師の教育や、地域としての取組も重要である。

### ④学習者とその親の間で技術的及び職業教育訓練の推進

教師の教授能力向上並びに職業訓練士の教育向上も、SEAMEO各国の今後にとって改善すべき課題である。

### ⑤教師の教育の改革と職業として最初の選択肢として教師を選択する

重労働なことと給料の低さが理由で、教員職に就くものが減少している。特に優秀なものが職業として教員職を選択するような施策が必要である。

### ⑥高等教育と研究の調和

特に大学における人材育成に関して、教育と研究の優先順位が議論されることが多い。教育も重要ではあるが、研究者の養成もSEAMEOにとっては重要である。

### ⑦真の21世紀のカリキュラム採用

様々な社会的課題に対応するためには、国際社会を踏まえた人材育成がキーとなる。そうした実情を踏まえたカリキュラムの改革も必要となる。

こうした結果を踏まえ、グループごとにディスカッションし、SEAMEO事務局としてすべき次の具体的施策を検討した結果を以下に示す。

- 継続的にフォーサイトを実施するためのSEAMEOコミュニティのセットアップ
- SEAMEOにおける継続的なフォーサイト活動と

図表4 デルファイ調査結果の一部

調査項目	評価
フィージビリティ 33 課題/実現確率	高い & 普通
重要性 / 潜在的影響	高い & とても高い
実現期間	多様、しかし一部の実現期間は明確かつ一貫性のある年が示された
主な実務者	大半は東南アジアの中央政府
主な成功要因	大半は政策、資金調達、コミットメント/考え方であるが、一部は技術と人材が示された
ワイルドカード 10 課題の実現可能性/確率	大半は低い/実現しない、しかし一部は高い & 普通 高い & とても 高い
イベントのトリガー	多様
イベントを管理する方法	多様

## 未来研究

- SEAMEO 活動計画と意思決定をサポートするためのフォーサイトの導入と制度化
- 関連する研究に関する情報の共有やデータベースの作成
- 学界及び関係機関と連携したシンポジウムやセミナーの実施
- SEAMEO 大学プロジェクト下での提案された研究ネットワークと実践のコミュニティのリンク

2015 年 4 月以降は、上記の内容をベースに新たなプロジェクトがスタートする予定である。

## 4 おわりに

2015 年は ASEAN の経済統合が開始される<sup>7)</sup>。統合されると当該人口は 6 億 4,000 万人 (2015 年予測) となる。EU27 か国が 5 億 3,000 万人、北米自由貿易協定 (NAFTA: 米国、カナダ、メキシコ) は 4 億 5,000 万人であることから、ASEAN は世界最大のフ

レームワークとなる。関税、投資、人の流れが自由化され、域内関税を撤廃、加盟国の観光ビザが廃止され、看護師などの職業資格を国家間で相互承認できることになる。例えばタイの大学を卒業して、フィリピンで看護師として働くことが容易になる<sup>8)</sup>。こうした背景より各国の強みを活かした人材育成策も、様々な方面で検討されている。

このように東南アジア地域が“一つ”になることにより、今までとは異なる形で強力に国際社会に対応していく状況が確立する。この動きは EU 統合と同じような状況を想定させ、今後は貨幣単位も東南アジアで統一されるかもしれない。そして多くの場面で我が国にも様々な影響を及ぼす。

我が国では、人口減少や労働力不足に対応するために、東南アジアからの看護師の導入施策が既に実施されている<sup>9~12)</sup>が、ASEAN 内での交流の変化が我が国にどのような影響を及ぼすか、今後も引き続き ASEAN の動きを注視する必要がある。

また、SEAMEO でスタートしたフォーサイトについても、継続的に積極的参画・貢献を図っていくことは、我が国の国際社会でのイニシアティブとプレゼンスを大いに示せるチャンスになる。

## 参考文献

- 1) 目で見える ASEAN - ASEAN 経済統計基礎資料 -、外務省ホームページ：  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asean/pdfssees\\_eye.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asean/pdfssees_eye.pdf)
- 2) SEAMEO ホームページ：[http://seameo.org/index.php?option=com\\_content&view=article&id=90&Itemid=518](http://seameo.org/index.php?option=com_content&view=article&id=90&Itemid=518)
- 3) 文部科学省ホームページ：[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/kyouiku/main5\\_a9/1324456.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/kyouiku/main5_a9/1324456.htm)
- 4) SEAMEO ホームページ：[http://seameo.org/index.php?option=com\\_content&view=category&id=103&Itemid=558](http://seameo.org/index.php?option=com_content&view=category&id=103&Itemid=558)
- 5) Post-2015 Education Agenda in Southeast Asia：  
[http://www.seameo.org/index.php?option=com\\_content&view=article&id=503&Itemid=593](http://www.seameo.org/index.php?option=com_content&view=article&id=503&Itemid=593)
- 6) 日本ユネスコ国内委員会：<http://www.mext.go.jp/unesco/004/003.htm>
- 7) AEC：<http://www.asean.org/communities/asean-economic-community#>
- 8) ASEAN に関する情報、外務省ホームページ：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asean/>
- 9) インドネシア、フィリピン、ベトナムからの外国人看護師・介護福祉士候補者の受入れについて、厚生労働省ホームページ：  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/gaikokujin/other22/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/gaikokujin/other22/index.html)
- 10) インドネシア人看護師・介護福祉士候補者の受入れについて、厚生労働省ホームページ：  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000025091.html>
- 11) フィリピン人看護師・介護福祉士候補者の受入れについて、厚生労働省ホームページ：  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000025247.html>
- 12) ベトナム人看護師・介護福祉士候補者の受入れについて、厚生労働省ホームページ：  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000049737.html>

..... 執筆者プロフィール .....



**浦島 邦子**

科学技術動向研究センター 上席研究官

工学博士。日本の電機メーカー、カナダ、アメリカ、フランスの大学、国立研究所、企業にてプラズマ技術を用いた環境汚染物質の処理ならびに除去技術の開発に従事後、2003年より現職。世界の環境とエネルギー全般に関する科学技術動向について主に調査中。